

研究室紹介

- 大山茂之研究室 (言語文化)
海堀正博研究室 (環境共生)
高谷紀夫研究室 (地域)
稲垣知宏研究室 (創造)
関矢寛史研究室 (人間)
小池聖一研究室 (情報行動)

この「研究室紹介」において、大山茂之先生の友人でもあり、総合科学部卒業生の Ken Ohashi 氏のイラストを、挿絵として使用させていただきました。



様々な人との出会い

カオサンで、僕は、あるイスラエル人に出会った。彼は、日本で働いているだけあって、日本語はべらべらだった。30代のおじさんだったにもかかわらず、なぜかとても話が合ってしまった。また、タイ人の男性と一緒にアクセサリーを売る女の子に会った。彼女は、近々彼と結婚する予定だという。そういう人生もありなのだなと思った。プラチャップキリカンでは、軍隊志望の少年に会い、自分との感覚の違いを痛感した。いろんな人に会うたびに、違いを感じたりしたけど、と同時に国や宗教が違って、変わらないものもあるんだなと実感した。そして、それらの出会いは、自分に大きなパワーを与えてくれた。

なぜ旅をするのだろう

日本は自分にとって、とても居心地のいい場所だ。その居心地のよさからずっといたくなる。けど、ふとした時に、どこかに行こうという気持ちになる。自分が見ず知らずの土地に行くことは、やはり不安に感じるが、それでも、行きたいという衝動が起る。それは、なぜなのだろうか。僕は、旅をする前に

はこの答えを見つけることはできなかった。しかし、今は、漠然とだけと言える。僕は、人と会うことが好きだし、違う文化に触れることも好きだ。常に毎日の変化を求めている。おかげさかもしれないけど、自分を試す為ともいえるかもしれない。そのような気持ちで僕を旅へと駆り立てるのだと思う。

ローカルな旅のすすめ

僕は、時間というものが大学生にとってとても重要だと思う。生かすも殺すも自分次第だが、もし、有り余る時間の使い道に困っている人がいたら、ぜひ旅をしてほしい。しかも、バックツアーではなく、個人旅行で。そして、地元の人と触れ合えるよりローカルな旅を勧める。ただ、見物するだけでなく、実際に生活するのもよい。その土地の人達が食べるものを一緒に食べ、その人達の習慣に従い、彼らと同じ道具を使う。そんな旅から、得ることが出来るものは、人それぞれだと思うが、誰であつても、今までの価値観、人生観を揺るがすものだと思える。みんなにも、ぜひそんな旅をしてほしい。

(取材) 筒井志歩



大学を出てすぐ就職というのは考えてなかったのですが、大学院に進みました。院に進んでは本格的に災害防止の分野に入り込みました。そして、全国の災害現場、例えば北海道の有珠山に行ったり、長い観測を続けていた四国の地すべり現場には年に4〜5回の割合で、1〜2週間泊り込みで行っていました。観測をしながら、その一方でライフワークである間隙水圧の研究を行ってきたわけです。

ここで思うことは、実験室内のみの研究であったならば、続かなかったやろうという事です。学生にも言っているのですが、デスクワークだけでなく、山を歩いたり現地に行くことも必要で、どれかだけでは具合が悪い、そのバランスが大事なんですよ、ということなんです。

研究内容

砂防学が専門です。研究テーマは、間隙水圧が土石流の発生・流動・堆積に与える影響です。どのような崩壊が流動して土石流となりやすいのかは、今でも解決していない課題です。

大学時代

スポーツマンでした(笑)。ずっとねえ、運動クラブやりました。運動に関しては、履歴書にも趣味は走ることと書けるぐらい好きでした。残念ながら、大学生になったときに運動クラブに入り損ねました。それで何に入ったかという、音楽、特にクラシックに興味があったので、合唱の勧誘を受けたときに、何となく入りました。それまでは器楽系が好きだったのですが、合唱が入ったのもも理解できるようになったのでよかったです。

学生としてはサボリの部類で、ともすれば講義より音楽を選んでしまいうような勢いでした。今でも、普通なら何もなくて暇で仕方なくなってしまうような場所に身一つで放り込まれても、体の中から音楽が溢れてくるので退屈を知ることはないでしょう。

きっかけ

大学3年生のとき、防災研究所が北アルプスで土石流の観測を始めるとかで人を求めているという話を耳にしました。観測は山奥で行われるし、アルバイト代も出せる状態ではなく、山が好きでこもってでも手伝ってくれる奴はおらんかと募っていました。当時は環境問題が脚光を浴び始めていました。僕はエコロジーをやりたいと思っていたので、そのときは一度行っただけでしたが、そのときは天候が悪く景色が何も見えなかったという未練も決心を手伝いました。

参加を決め、五月の残雪の残る中、重い機材を背負って登りました。山の上で観測をこなしつつ、夏には双眼鏡でふもとの砂粒のような観光客を、ようけ来とるなあ、と天狗の気分を味わいながら土石流観測をしました。天気の良い日にはきれいな湖の水や高山植物に囲まれ観測のことなど忘れて、ほーっとしていられました。

そんな中で、この学問ならば将来的にも自然環境豊かなところで研究できるので、という思いが芽生え、この分野も悪くないなと思うようになりました。それで砂防にしてみました。

学生へ一言

大学の間に伸びる可能性や資質を自覚めさせるような時間の使い方をしてください。人生について悩むのもよし。ストレートで来すぎると、人生に幅がでないから。勉学、研究のみならず、新しい視野のためのマンガ、ゲームの利用もよいでしょう。

大学時代を単位だけ取れたらええわと浪費せず、後からもつたいないなと思わない使い方をしてください。総合科学部では、様々な方向に資質を育てる時間の使い方ができますし、いろいろな可能性がります。しかし、どんな生き方をして後悔するかもしれないけれど、総科でできるいろいろな可能性を有意義に選び取り、失敗しても上手くいっても、後で振り返って、「自分はあるとき一杯やったぞ」と言えるようにやりなさい。その時点時点でいろいろな人が様々な評価するやろうけど、気にせず、やりたいと思ったらやりなさい。学生時代はやりたいことができる特別な時間です。高い授業料と引き換えに自由な時間を手にすることが可能な時です。



宮島の庭園砂防

(取材) 山本泰子

環境共生科学プログラム
海堀正博研究室



助教授

授業科目 自然災害と防災
人間と環境
砂防学

趣味
国内外を徘徊すること、音楽一般です。歌うことは学生時代にバンドをやっていたこともあって趣味になるかもしれませぬ。以前、留学先のヤンゴン大学のステージに立って、日本語の歌とビルマ語の歌を歌ったこともあります。現地の芸能新聞に名前が載ったりもしました。音楽を聴くことも勿論大好きです。ウエストライフ、パックストリートボーイズ、シエリル・クロウなどが好きです。国内では、小田和正、渡辺美里、DAMなどを聴いています。浜崎あゆみもよく聴きます。宇多田よりも浜崎ですね、今のところ。論文を書く時、ヘビメタを聴く習慣があります。集中すると音が全く聞こえなくなります。少しアパタイト感じもするけど(笑)。論文を書くたびにCDが増えます。



高谷先生の研究室は、先生のフィールドにちなんだ様々なものが飾られています。とても落ち着いた雰囲気の研究室で、何時間もそこでゆっくりとしたくなる、そんな空間でした。

学生へ一言

ひとりひとり人間は異なりますから、全体として云いたいことはあまりないのですが、人から聞いたうわさや評判ではなく、自分自身の行動力で知識や情報を探そう、そして自分自身で判断しよう、心がけて欲しいですね。

院生からみた先生

ダンディな方ですね(笑)ファッション、身のこなしが素敵なんです。学生と気軽に遊んでくれる先生です。なかなかそんな先生はいないと思います。

(取材) 筒井志歩

地域科学プログラム
高谷紀夫研究室



教授

授業科目 文化人類学
宗教社会人類学 同演習
民族誌を読む 地域研究実習
コンピュータ地域科学

研究内容

文化人類学、特に東南アジア民族学が専門です。文化人類学とは、地域研究をベースにしてより広く人類文化全体を考えるというものなのですが、私の場合は、東南アジアと日本の社会をフィールドにして人類文化全体について考え続けています。東南アジア地域にはトータルで約4年近く住んでいました。

きっかけ

まず、通った大学に文化人類学の研究室があったということが要因に挙げられます。また、私の兄が、日本民俗学を専門としていましたので、その影響もあるでしょう。一番大きい要因として、私自身、人と話をするのが好きで、人間に関わる研究がしたいという思いがあったからだと思います。

大学時代

学校には真面目に出ていた方だと思いませんよ。というのは、日曜日が嫌いで、休みだど、人に会えないでしょっちゅうん勉強もしてましたよ、人のいないところで(笑)。人前で勉強するのが苦手でした。院生室では一回も勉強したことがなかったですね。院生室の自分の机の引出しの中は、バンドの譜面台しかありませんでした(笑)。



備後のお祭り神饌(しんせん)の稲穂、日本のフィールドと研究室を結ぶシンボル

大学時代

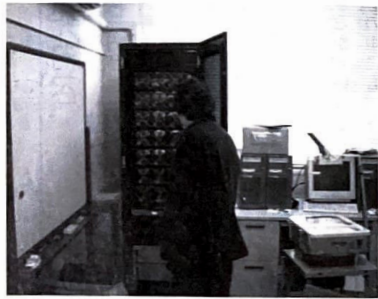
けっこう遊んでいました。控え室っていう学生のためり場によく行って遊んだり、美術部に顔を出して絵を描いたり、たまに議論したり。物理ばかりやっていただけではないです。物理に関する本はいろいろと読みましたし、試験前だけは一生懸命勉強しましたけどね。

趣味

学部生の頃はいろいろやっていましたが、今は子どもと一緒に釣り、それから後は読書です。昔はSFをよく読んでいましたが、今は、ホラーとか、推理小説を読むことが多いです。月に5冊は本を読んでいると思います。マンガもけっこう読みますよ。学生にお勧めの本というのは、これといっていないのですが、とにかく、自分の興味に沿って関連する分野の本を読みあさることをお勧めしますね。

興味を持って

まだ大学院生だった頃、大連で、中国、フランスの方と中華料理のコースを食べたことがあります。そのとき、スープを料理の最後に食べるか最初に食べるか中国とフランスでは異なるという話がでて、日本ではどうなのかわねられたのですがうまく答えられませんでした。その後、日本食とは何なのか、日本食はどこから来てどこに行こうとしているのか調べています。先の質問に明確に答えるのは難しいですが、今ならそれに関していろいろなお話ができそうです。



稲垣先生と並列コンピューター

学生へ一言

勉強するだけじゃなく、スポーツをしたり旅行に行ったりして、共通の興味を持つ友達を見つけて議論していく中で、学生は伸びていくと思います。また、議論をしている中で生じた疑問を質問に行くなどして、どんどん先生を利用してはいいかがでしょうか。簡単なことでも複雑なことでも何でもいいと思います。教わるだけでなく、人と人との結びつきを大切にして考え方の幅を広げていってください。



稲垣の先生の仕事場

(取材) 縄裕次郎

創造科学プログラム
稲垣知宏研究室



講師

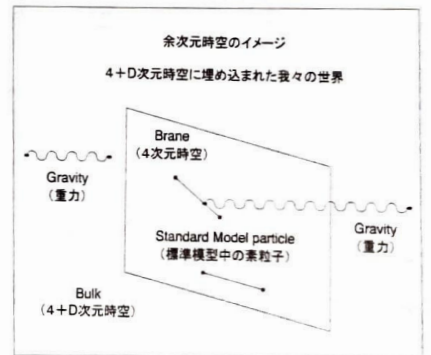
授業科目 情報活用基礎
量子力学入門
素粒子物理学
素粒子セミナー

研究内容

私達が住んでいる時空、目には見えない物質が、宇宙が始まったばかりのころはどういう形をしていた、宇宙の歴史と共にごう変化してきたのかを理論的に研究しています。具体的には、今、①余次元時空の可能性、②カラー超伝導状態、という2つのテーマについて研究しています。余次元時空というのは、この世界は、空間の3次元と時間の1次元の併せて4次元からなっているように見えるんですけど、本当は空間にはすごく短い、四番目以降の方向があるのではないかということなんです。カラー超伝導というのは、量子色力学の分野の一つで、原子モデルにおいて、陽子間に電気力があっても関わらず、陽子はなぜお互いに反発しないかという話から始まりますが、陽子を結び付けている強い力を元にすると電気力で起こる超伝導とは少し違ったカラー超伝導状態というのが考えられて・・・。ちょっと難しいですが興味があったら研究室まで聞きにきてくださいな。

きっかけ

小学生の時にまんがで読んだんですが、光速度が一定だなんてどうして科学者は思っているのか不思議だったんです。そして、高校生の時に雑誌で、クォーク、グルオンは直接観測できないけど存在するんだと書いてあって、それもまた不思議で素粒子の世界について勉強してみようと思ったんです。その後、研究室に入った時の先生が書かれた量子色力学の本を読んだりして、興味を持って、それで現在研究しているような分野に進んだんです。



余次元時空のイメージ

運動心理学を研究したかったのですが、私の大学には運動心理学を研究している先生がいなかったため、運動生理学の研究室に行きました。そのときから将来の夢としてスポーツ心理学者を目指すようになりまし

そこではどんな研究をしていたのですか？

よくぞ聞いてくれました(笑)。初めは勉強嫌いでした。スポーツばかりしていて、3年生の時にけがをして1年間のドクターストップをかけられたことがありました。それで、当時(3年生前期)はまだ研究室に配属されていませんでしたが、その頃行きたいと思っていた研究室に押しかけていきました。そこで教授や先輩たちの後ろ姿を見て、研究に興味を持つようになり、それがきっかけで大学院進学を考えるようになりまし

学部時代はどうでしたか？

よくぞ聞いてくれました(笑)。初めは勉強嫌いでした。スポーツばかりしていて、3年生の時にけがをして1年間のドクターストップをかけられたことがありました。それで、当時(3年生前期)はまだ研究室に配属されていませんでしたが、その頃行きたいと思っていた研究室に押しかけていきました。そこで教授や先輩たちの後ろ姿を見て、研究に興味を持つようになり、それがきっかけで大学院進学を考えるようになりまし

学生へ一言

今年度に入ってから、例えば授業中にうつ伏せになって堂々と寝たり、あからさまに携帯電話をいじる学生、すなわち教室という一つの空間で「周りが何をしていた」とお構いなし、人に迷惑をかけさえしなければ何をやってもいい」などという変な個人主義の学生が目立つ気がします。おそらく他人に対する思いやりが欠けているのだと思います。

いままでは、大学生は人間性の教育が十分にできてきたことを前提として、知識を教えることに集中できていたのかもしれないですが、これからはこういった考えを改めなくてはならないと思います。したがって、実験や実習のように人とコミュニケーションをとりながら進めることが非常に重要となります。ですから、広大生には社会的スキル(自分のとった行動が他人にどのような影響を与えるのか、相手に対して思いやりを持って行動すること)を身に付けてほしいと思っています。



Ken Ohashi Works 2002

(取材) 木村展久

人間科学プログラム 関矢寛史研究室



助教授
授業科目 運動科学
運動心理学
スポーツ科学実験
スポーツ実習

研究内容

研究内容は大きく分けて2つあります。一番専門でやっているのは運動スキル学習の研究です。運動スキル学習というのは、人間がスポーツ、音楽、ダンス、演劇など自分で体を動かして、技を習得するということです。このときにどうやって練習したら効率よく運動スキルを身に付けることができるかということを研究しています。広大生の中にも、うまくならうと一生懸命練習しているのに、間違った練習をしているために無駄な労力を費やしている人もたくさんいるのではないのでしょうか？私は、そのような人たちにとって少しでも力になればいいと思います。

もう一つはメンタルトレーニング(専門用語では心理的スキルトレーニング)の研究です。心理的スキルとは、①自己認識、②目標設定の仕方、③リラクゼーション、④イメージ、⑤集中力、⑥ポジティブシンキングの6つです。実際、スポーツの選手にこのようなトレーニング方法を教え、シーズン前とシーズン後に心理テストを行うことによって効果を測っています。

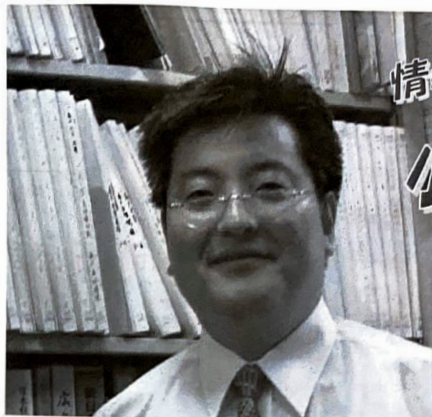
きっかけ

子供の頃からスポーツをやってきて、練習してもなかなか上手にならないとか、本番になると緊張して実力が思うように発揮できないのはどうしてかとずっと疑問を感じていました。その原因は、自分が現役の時に間違った練習をしていたもそれを指摘してくれる人がいなかったことでした。だから私はそれを研究して、その成果を一生懸命がんばる人たちに教えてあげたいと思うようになりました。

大学時代

高校時代から英語が大の苦手でした。にもかかわらず、大学院時代に1年間休学してアメリカに留学していました。帰国して修士課程を終了した後、再びアメリカに渡って4年間博士課程で学びましたので、計5年間アメリカに在学していたことになりましたね。おかげで英語に対するコンプレックスはなくなりまし。私は英語の発音や単語を覚えたりする時に、この運動スキル学習が役に立ったと実感しています。

(取材) 谷口博樹



情報行動科学プログラム

小池聖一研究室

助教授

授業科目 政治の世界A,B
政策情報論

研究内容

研究内容は多岐にわたっています。専門は日本政治外交史で研究テーマは戦間期の対中国経済政策、それから日本海軍と政治（政軍関係、海軍軍縮）、政策情報論（近代文書学）、森戸辰男研究と戦後文教政策、それと広島選挙分析ですね。これからやっていきたいのは戦後日本の対中国政策です。それら多岐にわたっているのを体系化していくのが一つの作業ですね。

きっかけ

大学に入る段階で浪人を長くやりましてね。どうせ大学に入るのなら好きなことやりろうということ、歴史学に進みました。その過程で近現代史が非常にももしろいと思ひ、進学しました。その過程で政治学の研究をしていて外務省に勤め、政治外交の研究を進め、現在に至ったということですね。

研究室の様子

研究室の雰囲気はよくいえばフランクですね（笑）。なにかかどうかはよくわかりません。何でも言える雰囲気だと思いますよ。学生もよく来るしね。

大学時代

あんまりまじめな学生ではなかったね。大体の遊びはしましたね。いい悪いも含めて色々やりましたよ。ふまじめではなかったけど、いわゆるガリ勉タイプでは全然なかったですね。結構好き勝手やってこゝまで来た感じかな。

趣味

元々収集癖があり、今は史料収集が趣味かな。研究が趣味って言えば趣味。史料を読んだり整理したりするのが好きですね。

学生へ一言

総科の学生はまじめでおとなしい（特に男性）。女性の方が、覇気があるというか、のびやかですね。学生には、指示待ちではなく自分で考えるようになってほしい。行動的に、それでいて紋切り型ではない批判能力を持って欲しいですね。あと、ヤンキーじゃないのだから、地べたに座るのはみつともないよ。